

箱根駅伝 タスキはつながった シード権狙えるチーム作りを…



1区 彦久保 文章



2区 行友 誠



3区 太田 宏嗣



4区 本多 幸希(右)



5区 福島 啓介



6区 吉川 裕也(前)



7区 乙訓 正幸



8区 菅野 慎吾(右)



9区 吉田 智



10区 福地 宏行(左)

第79回箱根駅伝(東京箱根間往復駅伝競走)が1月2、3日に行われ、2年連続60回目の出場となった伝統校の専大は、総合19位で完走した。例年、数々のドラマを生むこの駅伝。今年は初の学連選抜チームの出場や16年ぶりに全区間でタスキがリレーされたこと、暮れに万引き犯を取り押さえた本学のお手柄ランナー・太田宏嗣(文3・専大北上高)が3区に起用されたことも話題となった。

1年次生ながら1区に大抜擢された彦久保文章(商1・藤沢翔陵高)は、「予選会では力を実証済みだった(チーム内2位)と高尾信昭監督が語る通りの力走で12位とまずまずのスタート。エースが競う“華”の2区では、行友誠(商3・宇部鴻城高)が一時は6位に踊り出るなど好走した。しかし、3区では順位を18位に落とすと、流れを変えられないまま往路を5時間49分13秒の19位でゴールした。

復路は18年ぶりに雪のレースとなった。順位を上げられないまま9区から10区の鶴見中継所へ。あと34秒のところで繰り上げスタートと免れると、昨年(34秒差でリレー出来ず)の込もったタスキを大手町までつなげ、5時間44分59秒の18位でテープを切った。シード権獲得は今年もならず、今秋の予選会に再び挑む。

5区を走った福島啓介主将(法4・玉野光南高)は「タスキをつなぐことは当たり前のこと。後輩たちには1つでも上を目指して頑張ってもらいたい」と思いを託した。また、高尾監督は「選手層の薄さを痛感した。今年はシードを狙えるチーム作りをしたい」と心をすでに新チームへと切り換えていた。

来年は80回の記念大会となる。専大が今度はいかなる進化を見せるのか奮起に期待したい。(染谷智子・文1)
■写真は専スポ編集部員が分担して撮影。

[1月15日/ニュース専修12面]